

公益社団法人日本女子体育連盟 平成 28 年度総会議事録

日時：2016 年 5 月 29 日(日) 13:00~16:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟・310

1. 開会宣言 笹本重子副会長

2. あいさつ 高橋和子会長 松本千代榮名誉会員、杉山重利顧問、川口千代顧問、片岡康子顧問、村田芳子顧問、高橋眞琴参与、林眞幾子参与

3. 出席者および書記の確認

<議決数> 正会員(出席 19 名、委任状 16 名)、特別会員(出席 40 名、委任状 139 名)
計 214/301 ※定款 16 条・現数の 1/2 総会成立

<出席実数> 顧問 3 名、参与 2 名、監事 1 名、名誉会員 1 名、

正会員 19、特別会員 40、計 66 名

<書記> 高野美和子特別会員、三岳貴彦特別会員

4. 議事録署名人の選出 高橋和子会長、鳥取県女子体育連盟佐分利育代正会員代表、宮本乙女特別会員

5. 議長選出 高橋和子会長

6. 議題

(1) 報告事項

1) 会長報告

高橋和子会長より、資料に基づき報告があった。

① 慶弔・表彰等関係

顕彰/第 2 回 JAPEW 松本千代榮賞・片岡康子氏(東京)、高橋眞琴氏(東京)

第 4 回 JAPEW 功労賞・輿水はる海氏(東京)、三宅照子氏(大阪)

第 12 回 JAPEW 指導者賞・青木峯子氏(東京)、飯田路佳氏(東京)、小泉敏枝氏(静岡)

茅野理子氏(栃木)、堂口礼子氏(富山)、福井みどり氏(兵庫)

贈花/日本女子体育大学 50 周年式典 10/24-会長 馳文部科学大臣も列席

弔電/高知県女子体育連盟前会長野島昌子氏逝去(6/6)

② 後援・協賛承諾および役員等応嘱関係

応嘱/(公財)スポーツ安全協会 理事及び副会長-村田顧問

(公財)日本体育協会 監事-村田顧問

(公財)日本体育協会 評議員-高橋(眞)参与

(公財)日本体育協会・全国スポーツ指導者連絡会議 代表委員-笹本副会長

(公財)全国大学体育連合 大学体育関連情報調査チーム研究員-飯田常務理事

日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員-細川副会長・高野牧子常務理事

日本体育学会理事-高橋会長

後援/体操フェスティバル 2015 OSAKA (及び大会顧問)

アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ 2015

第 10 回子ども身体運動発達指導士養成講習会

第 23 回ねりま体操フェスティバル

第 54 回全日本学生なぎなた選手権大会 (及び大会顧問)

第 17 回なかの国際ダンス・コンペティション

伝統芸能ことはじめ その一「日本舞踊と狂言の巻」

③ 補助金関係

(公財)ミズノスポーツ振興財団/女子体育振興助成金交付 ¥1,000,000

(公財)スポーツ安全協会/助成金交付 ¥600,000

日本教育シューズ学校体育振興基金／助成金交付 ¥250,000

④研究および会議出席等関係

- ・研究関係/本部と加盟団体との共同研究（詳細は事業報告参照）
継続／東京都女子体育連盟 研究課題「教育現場におけるダンス部の位置づけと再考する為の基礎調査～ダンス部員の増加傾向に関わる実態調査および指導者・部員の意識調査」（共同研究者：笠井里津子）
新規／愛知県女子体育連盟 研究課題「各発達段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」（共同研究者：寺山由美）
- ・会議等出席関係
全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)運営委員会 4/25, 6/6, 7/4, 8/5, 10/3, 12/12
日本体育協会 加盟団体事務局長会議 4/22-花澤事務局員
日本スポーツ体育健康科学学術連合第1回大会 8/24-高野牧子常務理事
スポーツ庁創設レセプション 10/19
スポーツ審議会 12/24 -高橋会長参加
中央教育審議会「体育・保健体育・健康・安全WG」委員会 (2015.10～)
日本体育協会 全国スポーツ指導者連絡会議 12/11-佐藤廣子常務理事
日本体育協会指導者育成50周年記念式典 12/13-会長・村田顧問・笹本副会長・高橋参与
第1回学校体育ワーキンググループ 1/7 会長・細川副会長、寺山理事、片岡顧問、村田顧問
第50回全国女子体育研究大会（愛知大会）視察 1/9-会長
岐阜県女子体育連盟設立 1/10 会長出席・無料講習会実施
奈良県女子体育連盟講習会 3/28 会長出席・無料講師
NYC記念式典・祝賀会 1/15-笹本副会長

⑤主催、共催事業関係（詳細は事業報告参照）

- インターナショナル・ダンス・ワークショップ：ドイツのダンス教育
第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）
JAPEW SUMMER SEMINAR 2015（教員免許状更新講習会を含む）
第49回全国女子体育研究大会（東京大会）
ダンスムーブメント指導員A・B・C級養成および検定講習会、クリニック
ダンスムーブメントセミナー2015 in 栃木
第59回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

⑥連盟関係

- 内閣府へ定期提出（事業計画等） 3/27
全国理事会 5/9、2016.2/11
正会員懇談会 11/6
JAPEW 賞選考委員会
研究奨励賞 5/9 委員：会長、細川副会長、顧問（金子）理事（高野、茅野、八木、笠井）
指導者賞 5/9 委員：会長、細川副会長、顧問（山西）林参与、理事（飯田、佐藤、小松）
松本千代栄賞 5/25 委員：会長、副会長（笹本、細川）、顧問（杉山、片岡、村田、川口）
功労賞 5/25 委員：会長、笹本副会長、顧問（杉山、片岡）、参与（高橋、林）理事（石澤）
内閣府および(公財)日本体育協会／26年度事業報告・27年度事業計画・財務諸表等届出

⑦その他

- NYC／庁舎等使用申請書提出（事務局使用許可）
(公財)スポーツ安全協会普及奨励助成事業申請書提出

NHK主催・アマチュアスポーツ関係者新春懇親会出席（村田顧問）
日本教育シューズ主催 新春懇談会出席（笠井常務理事、飯田常務理事）
『(公社)日本女子体育連盟学術研究第32巻』刊行
第32巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開
DMS2016 埼玉県女子体育連盟内諾（5/24）
DMS2018 沖縄県女子体育連盟内諾（7/7）
第51回全国女子体育研究大会（鳥取大会）内諾（開催予定 2017.11/24-25）
「科学研究費助成審査システム改革2018」に関するパブリックコメント提出（5/21）

（2）審議事項

高橋会長より、以下の事業報告について説明があり、承認された。

1) 平成27年度事業報告

I. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

(1) 関連研究プロジェクト

(高橋会長)

○研究タイトル

『出会いの場としてのダンスがもたらす社会へのインパクト
ー関わりづくりのダンス実践に関する状況調査を通してー』

○申請者／八木ありさ（日本女子体育大学） 田巻以津香（東海大学）

原田純子（関西大学） 岩沢孝子（北海道教育大学）

○研究目的：社会で生きる力を育むために活用されるダンス、社会を生きやすく変えるために行われるダンスが実際にどのような実施状況にあるのかを探る。

○研究結果：2年目の本年度は、生涯スポーツの一環としてのダンス振興を目的とした取り組みに限定し、連盟事業「ダンスムーブメント指導員」資格取得者を対象に、指導実施状況と意識調査を実施した。回答者数は102名（A級18、B級46、C級36、不明2）、平均年齢57.61±8.6歳、平均ダンス指導歴年数23.00±7.11年、平均ダンス活動開始年齢32.35±6.10歳であった。1回あたりの平均指導時間は91.87±13.23分、1ヶ月あたりの平均指導頻度は14.89±6.69回であった。

所持級を説明変数とした分散分析では、指導歴について $A > C$ 、 $B > C$ 、年齢について $A > C$ で5%水準の有意差が見られた。

指導資格取得者がダンス活動を開始した理由についての因子分析の結果、「新しい活動や仲間への期待」「安心」「ダンスへの関心」「間接的関心」「身体的欲求」「講師／指導への関心」の6因子（プロマックス回転、固有値1以上、累積寄与率68.45%）が抽出された。因子得点とDMILA、B、Cの所持級との関連を比較したところ、「身体的欲求」因子に $C > B$ 、 $C > A$ 、また「講師／指導への関心」因子に $A > B$ 、 $A > C$ の有意な差が見られた。

活動の利点を説明する因子としては「集う」「関心事と学びの共有」「音楽とダンスに親しむ」「創造と自由を体験する」「自信が持てる」「変身できる」の6因子（固有値1以上、累積寄与率71.74%）が抽出された。因子得点と所持級との関連を比較したところ、統計的有意差は見られないものの、「関心事と学びの共有」「創造と自由を体験する」「自信が持てる」の3因子について、A級所持者がより高い値を示す傾向が見られた。

これらからは、初期にC級を取得する際にはより身体的な満足感への動機づけが強く働いていて、B級、A級へと進むと、指導者としての活動への動機づけが強く働くようになること、また、これと並行して、高い所持級に進むと、仲間との共有体験や創造性といったダンスの持つ性質をより感じており、同時に自信を持つことにつながっている、と推論することができる。（詳細を『学術研究』で報告の予定。）

(2)加盟団体との共同研究

(高橋会長)

以下の共同研究を実施した。

(継続) 東京都女子体育連盟 (共同研究者: 笠井里津子)

研究テーマ「問いかけが拓く 心と体 ～ダンス・表現運動～」

○結果: 教師や指導者が「問いかける」ことと、児童・生徒が多様な動きで「答える」という相互作用に着目した。幼児から生涯スポーツまでの7つの分科会で、どのタイミングで、どのような順番で、どのような風に「問いかける」のかを研究した結果、身体が主体的になり、多様性を広げ、表現性を高められるという成果を得られた。

(新規) 愛知県女子体育連盟 (共同研究者: 寺山由美)

研究テーマ「各発達段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」を継続研究中

(3)全国女子体育研究大会

第49回全国女子体育研究大会(東京大会)

□実行委員会

期 日 2015年11月6日(金)・11月7日(土)

会 場 ティアラこうとう、各分科会会場

主 催 (公社)日本女子体育連盟 東京都女子体育連盟

後 援 文部科学省、東京都教育委員会、(公財)日本学校体育連合会、各校種園長・校長会、各校種体育・保健体育研究会、東京都中学校体育連盟、

(一財)東京私立中学高等学校協会、(公財)日本教育公務員弘済東京支部

テーマ 「粹に 雅に 明日を拓く ～問いかけから広がる可能性～」

内 容 分科会(6日) 幼児分科会・小学校分科会・中学校分科会・高校分科会
特別支援分科会・大学分科会・生涯スポーツ分科会の7分科会による公開授業・研究発表

全体会(7日) 全体会(表彰式、記念講演、シンポジウム、公開演技)

参加者 全国幼・小・中・高校・大学および生涯スポーツ指導関係者・学生等 253名

講師・役員 124名、公開演技参加者 483名、公開演技観覧者 374名、

計1,234名

<概 要>

大会テーマは「粹に 雅に 明日を拓く ～問いかけから広がる可能性」とし、幼・小・中・高・特支・大学の各分科会とも、ダンス・表現運動における指導者の『問いかけ』に焦点を当てて、これまでの2年間、実践・研究を積み上げてきた。その成果を存分に発揮して、実りある内容の公開授業、研究協議を実施できた。本連盟で研究してきたダンス・表現運動の授業は、教師主導の一斉型授業でなく、学習者主体の課題解決型学習であり、この課題解決型学習においては指導者の『問いかけ』が学習者の活動を左右する重要なポイントとなる。発達段階や学習者の状況に応じて適切に準備され、意図的に発せられた『問いかけ』によって、学習者が主体的に学ぶよい活動が引き出される。学習者は、グループ学習を通じて他者とかがわりながら、自らの力で課題を解決していく。ダンス・表現運動は、今後の体育指導の在り方を変え、リードするものと改めて確信している。

また、全体会も、『問いかけ』を軸に、特別講演、研究報告、公開演技を実施した。花柳基氏の特別講演では「芸は人みがき～師の背中に問いかける」というテーマのもと、日本舞踊の古典作品に触れる、貴重な機会となった。研究報告(レクチャーデモンストラーション)では、児童生徒を実際に指導する様子を舞台上

で発表した。いろいろな分科会の発達別指導の様子を見ることができ、大変有意義であった。最後は会場全体で吹奏楽の生演奏「上を向いて歩こう」に合わせて踊り、フィナーレとなり、大会は盛会裏に終了した。

II. 女子体育に関する講習会及び育成事業

(1) サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2015—平成27年度夏期講座—

□生涯スポーツ／授業・保育／研究交流専門委員会

(飯田常務理事、佐藤常務理事、寺山理事)

期 日 2015年8月18日(火)・19日(水) ※20日(木)－教員免許状更新講習
後 援 文部科学省、東京都、(公財)日本体育協会、(公財)スポーツ安全協会、
(公財)ミズノスポーツ振興財団
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター (NYC)
内 容 講演(開講式・講演)、ワークショップ(実技・理論)
参加者 全国幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等
参加費 会員(正会員・特別会員・購読会員)12,960円、一般15,120円、学生7,560円

※会員＝正会員・特別会員および購読会員

<概要>

A(生涯スポーツ)コースは「逆転の発想!～明日へのヒント～」、BC(学校体育)コースは「子どもへのアプローチいろいろ～自分にあった指導法を探ろう!～」をテーマに、2日間開催された。今年度は、BコースとCコースを統合し学校体育コースとしては1つに絞って開催した。また、BCコースの中で教員免許状更新講習が同時に開講された。加盟団体から1名の無料参加を募り、12団体が利用された。参加者の内訳は、会員164名、一般80名、学生42名、加盟団体枠12名の計298名であった。また、教員免許状更新講習は、延べ人数40名が受講した。

初日Aコースでは向後千春氏による講演「アドラー心理学入門:幸せに生きるヒント」から始まり、外部講師の小山正氏をはじめ、バラエティに富んだ内容で実技が行われた。BCコース(教員免許状更新講習を含む)では、高田彬成氏による講演「体育・保健体育科に求められていること」が行われ、学習指導要領の推進役の立場から現在のダンスを含む体育学習への適切な提言が示され、午後からは、BCそれぞれのコース別講習会が行われた。

2日目は、Aコースでは朝田隆氏による講義「認知症予防と運動・音楽の効果」、木内周史氏による実技「カラダの意識を変えるストレッチ」から始まり、多様性のある実技が開講された。BCコース(教員免許状更新講習を含む)では、ダンス指導の方法と内容に関する実技が展開され、具体的な実践例を中心においた内容の講義と実技が行われた。

参加者のアンケートでは、「レベルの高い内容で、よい刺激をたくさんもらった」などの感想があり、それぞれ設定したテーマに即した講習会であった。一方で、「動きについていけず残念」や「資料の字が小さい」などの意見もあり、今後も検討や改善が必要であることが示唆された。

3日目は、DMIL指導員クリニックおよび養成講習会や教員免許状更新講習を開講した。

(2) 未来世代の研究発表会

第59回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(宮本理事)

期 日 2016年2月11日(祝・木)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(カルチャー棟小ホール)
内 容 ①研究発表部門 <第59回未来世代の研究発表会(卒論・修論・博論)>
②卒業ダンス作品発表部門

<概要>

「未来世代の研究発表」(卒論・修論・博論)と「卒業ダンス作品発表」の2つの柱を掲げ、3月に大学を卒業・修了する未来世代の若者が研究やダンスの成果を発表・交流しあう行事が終了した。各大学において、ご指導下さった先生方に心より感謝申し上げたい。当日は研究発表者46名、ダンス作品発表者43名(このうち両方に参加した学生は11名)、ダンス招待校生徒・学生47名、座長や関係者、観客としての来場者を加えて340名を超える参加人数であった。

研究発表は、口頭発表3題、ポスター発表42題のエントリーを得て活発に質疑が行われた。ダンス発表は、今年も様々なジャンル(モダン、コンテンポラリー、創作、リズム系等)様々なグループ(研究室、部活動、有志等)からの8エントリーと招待作品2作であった。会場はほぼ満席となり、それぞれ、お互いの作品に、心からの拍手や声援が飛び、温かい会となった。

参加者アンケートより紹介する。口頭発表「自分でやってきたことよりも、より深く研究を自分のものにして堂々とした発表が素晴らしかった」「自分の研究分野だけでなく、いろいろな研究内容があり、勉強になった」ポスター発表「一人ひとりの研究内容が似ているようで、でも似ていなくて、着眼点を変えるだけでこんなにも研究のしようがあるのだと感じた」「研究内容が端的にまとめられていてわかりやすく、気軽に意見を交換できる場だった」ダンス「舞台との距離が近く、今まで気づかなかった動きや表情を見られたのがよかった。大学生の作品の意味合いがおもしろかった。」「すべての団体が思いのたけをぶつけて楽しんで演技していた。」フィナーレも好評でありまた参加したいという意見をたくさん聞いた。交流の目的はおおいに達成できた様子である。細かな運営上の反省点を改善して来年度も継続していきたい。

(3) ダンスムーブメントセミナー

□指導員制度専門委員会(笹本副会長)

広域連携推進事業/ダンスムーブメントセミナー2015 in 栃木

共催 栃木県女子体育連盟

期日 2016年2月20(土)・21(日)

会場 栃木県体育館

後援 文部科学省 栃木県教育委員会 宇都宮市教育委員会

講師 片岡康子、林真幾子、高橋真琴、山田喜美江・篠史美(DMIL-A級インストラクター)、細川江利子、村田芳子

参加数 県外52名、県内72名、講師等16名 計140名

<概要>

栃木県女子体育連盟のご尽力により、県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、宮城県から沖縄県までの受講者が大勢参加頂いた。今回10回目の記念セミナーであり、このセミナーの生みの親の片岡顧問・高橋参与・林参与に講演、実技指導をお願いして充実したセミナーとなった。さらに、多くの県から大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時を共有することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。また、県内の方々にDMILへの関心を高めていただけたようであり、普及・促進への嬉しい実りを感じている。

(4) 「ダンスムーブメント指導員」養成事業(略称DMIL)

□指導員制度専門委員会

①「ダンスムーブメント指導員」養成講習会<A級-第11回、B級-第15回、C級-第18回>

期日 2015年8月18日(火)・19日(水)・20日(木)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内容 理論、実技 計21時間 (※18日・19日はサマーセミナーAコース受講に代える)

講師 高橋真琴、飯田路佳、佐藤廣子、飯田義明

受講者 今年度資格取得希望者 A級2名、B級6名、C級0名 計8名

②「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2015年9月11日(金)・12日(土)・13日(日)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験

講 師 高橋和子、片岡康子、村田芳子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、細川江利子、
飯田路佳、笠井里津子、八木ありさ、高野牧子、寺山由美、佐藤廣子

受講者 A級2名、B級4名

合格者 A級2名、B級4名

検定委員 村田、片岡、高橋眞、林、高橋和、笹本、細川、高野、八木、笠井、飯田、佐藤、寺山

概 要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。今回はC級受講者が0名だった。詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。公認指導員現数は167名。

③「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2015年8月20日(木)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 実技研修

講 師 片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、笠井里津子

受講者 A・B・C級 有資格者 66名

概 要 本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は『女子体育』12・1月号で報告した。

Ⅲ. 機関誌その他の学術刊行物の発行

(1) 『女子体育』編集発行

□ 『女子体育』編集専門委員会 (高野牧子常務理事、高橋うらら理事)

①刊行 隔月刊・年間6回、通常号4本、特集号2本(60周年特別企画号、AJDF報告特集号)とした。

②方針 平成27年度も引き続き、通常号80頁(907円+税)、増刊号120頁(1,157円+税)、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③年間テーマ 「ダンスの力をすべての人へ」

平成27年度も昨年度と同じ年間テーマ「ダンスの力 すべての人へ」というテーマを掲げ、継続性を持たせた上で、刷新した。平成26年度は、学校体育の表現・ダンスの充実を図り、小学校、中学校は必ず掲載することとした。そこで、今年度は生涯スポーツの誌面充実を目指していくこととした。具体的にはDMIL認定講座は理論と実技の2コーナーに加え、「DMIL合格体験談」を新設してDMIL合格者の声を掲載し、どのようにトライし、現在どのように活用されているかご紹介いただくことで、DMILの感動を皆様にお伝えした。また、連盟の活動内容を紹介し、各加盟団体との連携を図る為に、委員会ごとにそのメンバーと仕事の内容を広報した。

④月テーマ

○4・5月号(通常号) 80p 「扉をひらく」

○6・7月号(通常号) 80p 「自分を認める」

- 8・9月号(特集号) 120p 「ダンス指導ハンドブック ダンス指導実践集」
- 10・11月号(特集号) 120p 「第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)報告特集号」
- 12・1月号(通常号) 80p 「振り返りから学ぶ」
- 2・3月号(通常号) 80p 「夢をえがく」

(2)『学術研究』発行 □『学術研究』編集委員会(高野牧子常務理事・佐分利理事)
『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第32巻を刊行した。

IV. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

(1)全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) <28th All Japan Dance Festival-Kobe>

□AJDF-KOBE実行委員会(八木常務理事・平田理事)

- 期 日 2015年8月5日(水)・6日(木)・7日(金)・8日(土)
- 会 場 神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
- 主 催 (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
- 主 管 第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会
- 後 援 文部科学省、(公財)日本体育協会、NHK(日本放送協会)、
(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、
兵庫県教育委員会、(公財)神戸市スポーツ教育協会、
(公財)ミズノスポーツ振興財団、(財)地域活性化センター
- 協 賛 (株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社
- 協 力 (公財)ユーハイム・体育スポーツ振興会
- 内 容 ①開会式
②創作コンクール部門(高校/予選・決選、大学/予選・決選)
③参加発表部門 *8月7日(夜)・8日(朝昼)の2日間に渡って上演
④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品)
*特別プログラムは大ホールにて2回公演(入場料¥4,000)
- 表 彰 文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、
特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)
- 参加校数 ①創作コンクール部門 高校/95・大学/32 計127校
②参加発表部門 高校/49・大学/22 計71校(サポちゃんズ含72作品)
- 参加人数 ①創作コンクール部門 高校/2,020(内男子89)・大学/577(内男子115)計2,597名
②参加発表部門 高校/898(内男子65)・大学/360(内男子56)計1,258名
- 参加都道府県数 28
- TV放映 NHK Eテレ 8月23日(日)(愛知・岐阜・三重は8月29日)
- その他 ・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売
・第28回大会のDVD(Blu-ray)販売の申し込み
・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

<概要>

開会式では、参加者代表による宣誓を行い、感動的な演出となった。NHK放映のために開会式の幕開けで演出の希望があり、式典係が対応した。参加人数は昨年をやや下回った。その理由として、当初の参加発表部門の参加申し込みが75を超えたため抽選を行って限度に収めたが、その後、学事（定期試験等）の都合で参加取りやめとなった参加グループが複数出たことがあげられる。今後も、何らかの理由で複数グループが参加を取りやめる可能性はあるものの、参加グループ数の上限規定は、現状の環境での安全管理上不可欠のものであるため、来年も引き続き実施する予定。参加都道府県の増加については、今後も取り組んでいきたい。また、昨年の土屋太鳳さん（二階堂高校出身・女優）に続き、本大会参加経験がある金城さん（読谷高校出身・シンガーソングライター）が、テレビ放映のナレーションを務め、好評を得た。災害等対応のための危機管理体制を再三確認し、より安全かつ参加者にとって意義のある大会に向けて取り組んだ。参加作品のための音楽使用に関する情報提供、また著作権料の支払いルールについて、各方面から情報収集し、次年度以降へ向けての課題を整理した。

(2) 国際的な研究交流事業 □国際交流専門委員会（八木常務理事 田中葵委員長）

① 国際女子体育連盟（IAPESGW）、その他諸団体との連携

○日本代表である（公社）日本女子体育連盟会長・高橋和子、NPO 法人 JWS（Japanese Association for Women in Sport）代表・小笠原悦子氏、WSF ジャパン（女性スポーツ財団）日本支部事務局・高橋昭子氏との連絡調整を行った。

○将来 IAPESGW 大会を日本で行うことの可能性について、定例理事会、常務理事会、IAPESGW 執行部などから意見聴取、並びに情報収集を行った。

② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日 2015 年 4 月 6 日（月）18:00～21:00

会 場 NYC カルチャー棟 41 室

主 催 （公社）日本女子体育連盟

協 力 天理大学

講 師 Brigitte Heusinger von Waldege (Philipps-Universität Marburg)

内 容 ドイツのダンス教育専門家養成者として活躍中の講師を迎え、コンテンポラリーダンスや創作ダンスのテクニック、即興、音楽への視点などを重視する氏の考え方や、これらを用いた指導法を体験的に学んだ。学校教育に限らず、生涯教育の中でダンスを生かして行く具体的な取り組みの方法について特に参考になったと好評であった。

参加者 一般、学生合わせて 41 名

参加費 会員 3,240 円 一般 5,400 円 学生 2,160 円

③ （公社）日本女子体育連盟活動情報の国外への発信

● ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

● IAPESGW News Letter へ連盟の活動を投稿した。

④ 国内の異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

● 定例理事会等で、学校、地域などでの異文化交流を、体育・スポーツ・ダンスによって推進する方法に向け、情報収集の提案を行った。

V. 研究の奨励及び研究業績の表彰

JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会（笠井常務理事）

JAPEW 賞は社団法人日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。2015 年 5 月 9 日に指導者賞選考委員会、5 月 24 日に松本千代栄賞選考委員会、功労賞選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定

した。表彰者には、第49回全国女子体育研究大会（東京）開会式（11月7日）において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、表彰者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP上で公表した。

① 第2回松本千代栄賞

受賞者 片岡康子氏（東京都）、高橋眞琴氏（東京都）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）杉山重利、川口千代、片岡康子、村田芳子、笹本重子、細川江利子

② 第4回 JAPEW功労賞

受賞者 輿水はる海氏（東京都）、三宅照子氏（大阪府）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）杉山重利、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、石澤宣子

③ 第12回 JAPEW指導者賞

受賞者 青木峯子氏（東京都）、飯田路佳氏（東京都）、小泉敏枝氏（静岡県）、

茅野理子氏（栃木県）、堂口礼子氏（富山県）、福井みどり氏（兵庫県）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）山西哲郎、林眞幾子、細川江利子、飯田路佳、佐藤廣子、小松恵理子

④ JAPEW研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）金子明友、細川江利子、八木ありさ、笠井里津子、高野牧子、茅野理子

VI. 広報・普及活動

□広報・普及委員会（高野美和子委員長）

(1) 『女子体育』購読促進活動

- ・『女子体育』購読会員増員のための活動（広報・普及および編集専門委員会、事務局）を行った。
- ・新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ会員への対応を行った。

(2) 企画・広報

- ・事業報告・事業計画・財務諸表（決算書・予算案等）の情報をHPに公開した。
- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
- ・加盟団体の情報をHPに掲載し、相互リンクを行った。

(3) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第32巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。

2) 加盟団体活動報告

- ・各加盟団体から27年度の活動報告があった。

3) 平成27年度決算報告

- ・細川江利子会計担当理事より資料に基づく説明があった。吉牟田美代子監事から監査報告があり、平成27年度の決算報告は全会一致で承認された。

4) 会員の承認

- ・高橋会長より資料に基づき平成28年度の会員が報告され、全会一致で承認された。

5) その他

- ・岡山県女子体育連盟岡本悦子正会員代表より、特別会員の在り方について問題提起を受け、伊藤美智子理事から加盟団体状況調査の結果報告があった。この結果からの検討課題を各加盟団体は持ち帰り、改めて検討してくることとなった。

7. 議事録確認 書記の高野美和子特別会員より、議事録の確認があった。

8. 閉会宣言 細川江利子副会長

平成28年 5月29日

議 長	会 長	高橋 和子
署名人	正会員	鳥取県女子体育連盟 代表 佐分利 育代
	特別会員	宮本 乙女